

平成 26 年 7 月 21 日

東海大学放送研究部 OB 会
平成 26 年度 第 2 回役員会議事録

日 時：平成 26 年 7 月 21 日（月） 15：00 ～18：00

場 所：ルノアール横浜関内駅前店

出席者：小林，橋本，山田，坂代，佐藤（貴），佐藤（一）

以上 6 名

議 題

1. 総会の反省（以下、意見を箇条書き記述）

- ・講演は、時に聴くものが新しい知識や情報を得ることができたときに、大きな喜びを感じるものですが、まさに興味深く醍醐味あふれる内容でした。
- ・講演者の鈴木氏のご専門の学部と放送研究部の活動を礎に、放送現場での豊富な経験と実績が言わしめたものと納得しました。少なくともこの世代の OB までは、この放送研究部の活動の精神をしっかりと受け継いでくれていると安心させられた講演でした。

（上記は書面による意見）

- ・今回の出席者の問題で、「日曜日より土曜日がいいだろう」とか「父の日を避けたほうがいいのでは」との配慮で実施したが、出席者は非常に少ない結果となった。
- ・今回は 3 月の合同役員会の前の役員会だけで、総会前に総会の打合せも含めて役員間で意見交換が全くできなかった。
- ・一般的に役員等で何かかわりを持つと出席するが、そうでないとあまり出席はしない。
- ・今までのような総会の形式はやめて各年代で集まって懇談し、ある時間が来たら全員集合して「総会」を 30 分位で切り上げて、懇親会に移行する。もちろん、今までのような講演と現役のプレゼンテーションは実施する。
- ・各年代の中から例として「ゴルフコンペ」などを計画し、参加者を全員から募る。などの形式も考えられる。
- ・出張などを利用して地方にいる登録会員と会って懇談するような機会を作ることも考えられる。横の広がりをもっと大きくしないと、世代交代が難しい現状でもある。
- ・個人的には自分の現役時代以来お目にかかっていなかった方とお会いできたことを考えると、逆に 9 月から 6 月に変更したことや土曜日だったから出席できたという人もいるのではないか。
このことを基に考えると総会開催時期の 6 月は動かしがたいので 6 月の上旬・中旬・下旬の時期（土曜・日曜）を隔年でずらして実施する方法もある。
- ・総会そのものを魅力あるものに変えていけるかが当面の焦点かも知れない。
- ・HP を生かした仕組みを考えてみることも必要。
- ・今回から「活動支援金」の渡し方を変更したが、あれはよかったと思うので、これからも続けていきたい。
- ・今思うと 20 代は親しい友人などとは結構会っている、30 代は結婚式であつたり、40 代半ばは仕事中心で動き、50 代になって少しゆとりができて友人を思ったりできる段階で 60 すぎると「あいつは元気そうだ」などといえる段階に来る。
- ・年 1 回の同期会的なものだということをメリットにするのもいいと思う。また、時期に対してはその人の優先順位で決まってくるのではないか。
- ・OB 会に関する「関心や気安さ」をどう高めるか。
- ・大学に対する思い出や愛着は古い年代の人とは全く違うので、ましてやサークルとなるとその違いは大きくなるのではないか。

- ・今年の卒業生に対して入会案内の文書と督促をする予定。(振替用紙同封)
- ・HP のアクセスを見ると、確かに関心が高まっていることは事実だと思う。何かきっかけがほしいのではないか。
- ・年代別にコミュニケーションアップの時間を作るのであれば、もっと早くからインフォメーションを出すようにする。(HP の活用)
- ・とりあえず「今度の総会はこんなことをやるよ」ということを早めに決めて、PR 活動をやってみて、その結果あまり効果がないようであればまた、別の手を考えればいいのではないか。
- ・今までの議論を踏まえて、各自建学祭の時期位までにそれぞれ案を考えてきていただくというのはどうか。
- ・本来 6 月開催するというのは「新卒業生に対して、現在の OB の方たちと顔合わせ(歓迎会)も兼ねて出席してもらおう」という趣旨だったように思う。しかし、総会前の役員会が開催されなかったのもそのような話もできなかった。
- ・現在の学生の実態を見ると、4 年生になったら完全にクラブ活動との関係が切れてしまう。また、学生は 15 時以降でないと部室に入ることさえできない。この状態では建学祭などの準備が十分にできない。
- ・現在の学生はクラブ活動に大きな制限がある関係で、いろいろな難しい問題があるようだ。
- ・現状では、学校・文連・各クラブ等々の関係がOB会として理解できていないことが多いため、夏休み中に学校の担当部署に聞いてきたいと思っている。

今までの話を基に、OB 会に対する認識を高めるためにはどうしたらいいのか? 役員会・OB 会への入会アプローチはどうしたらいいのかなどを踏まえて、建学祭時期までに各自意見を考えていただくこととした。

以下の提案の理由を事務局長より説明があり、その後検討に入った。

(説明)

1. OB 会発足当時は学校等の施設・設備を借用にあたって、佐藤の知人がいた関係でいろいろと無理も言えたし、ある程度の融通もしてもらうことができ 8 年が経過しました。今年の 3 月で知人も定年退職を迎え、学校の担当者も次第に若返りの方向にあります。
2. この 8 年の間に放送研究部 OB 会もある程度、学校からも認知されてきています。
3. 総会資料、役員会議題、借用願、等々の資料作成を一人でやると、気を付けていても、同じような内容の修正加筆が重なると、どうしてもミスが起こります。

上記、理由から OB 会役員の担当役割に準じた以下の仕事を分担していただきたい。

2. 役員役割分担について

さまざまな意見交換の結果、以下のように決まった。時間を見て各担当に佐藤より今までの資料(借用書)原案のファイルを各担当部署に送ることになった。

(主な意見)

- ・総会の教室については通常の会場借用とすると、一般教室に割り当てられてしまうことがあるので、申し込みの際に「多目的室」とこちらから指定して依頼するとよい。
- ・知り合いに頼る形態はやめて、役員がそれぞれの係りに応じて仕事をして、事務局長が統括したらいいと思う。それが、仕事を引き継ぐ場合に有効に作用すると思う。
- ・会計は現状では一人で大丈夫とのこと。

- ・HP作成に関しては坂代氏がHB（ホームページビルダー）を使った経験があるとのこと、サブとして尽力いただけることとなった。

- (1) 総会・懇親会の教室確保（年1回）・・・ 総務担当
- (2) 総会案内発送（年1回）・・・ 総務担当
- (3) 総会資料作成（年1回）・・・ 佐藤（一）担当
- (4) 役員会開催（準備・会場・議題案作成）（年4回）・・・ 総務担当
*議題案は会長，副会長，役員の見解徴収も必要
- (5) 合同役員会出版会会議室借用（年1回）・・・ 庶務担当
*現役役員との意見交換が主目的となっています。
- (6) 建学祭控室出版会会議室借用（年1回）・・・ 庶務担当

——上記(5)(6)については佐藤(一)より瀬川様に打診することになった。——
なお、この件では7月22日（火）に瀬川様の快諾を得ました。

- (7) 会計（増員は必要ないのか？）（随時）・・・ 山田担当
- (8) HP作成・管理・運営（随時）・・・ 佐藤(一)・坂代担当

3. 実働役員の増員について

- ・単なる意見交換ではなく実際に候補者を推薦，交渉後の可否をはっきりさせる。
- ・平成23年度の役員会で「連絡員」を置く旨の話が出ましたが，何ら進展がなく，話だけで終わっている関係で再度，検討する必要がある。

(主な意見)

- ・次のことを考えると，坂代・佐藤(貴)両氏の年代で誰か候補がいれば，役員として入ってもらい，担当していただくといいと考えている。そんなに急ぐことはないので，そんな視点で考えてもらいたい。
- ・今持っている仕事のうち，できるものから分担を決めたらどうか？したがって，現在の役員で分担を決め，増員については別に考える。
- ・連絡員の趣旨は「各学年またはOB会連絡担当」の方々でもいいと思っていたが実際は登録実績がないため困っている（取り組み方の検討が必要）。
- ・卒業するOBをフォローする役が必要ではないか？
議論を聞いていると，それは副会長の役割ではないか？現在，副会長は2人いて「中を見る副会長」と「外を見る副会長」としてある。
- ・建学祭の折の「OB控室」は現役の4年生の居場所として自由に使えるようにする。
- ・今迄，「会費を払って，どんなメリットがあるのか？」という意見もあったが，OB会というのは「後輩の活動を支援する」，「先輩とのつながりを継続する活動を行う」などの目的のため，そこにメリットを求めるのは少し疑問がある。
- ・OB会への参加の意義は個人の価値観の違いがある。現在の会費の金額はそれほど大きな障害の要因になっているとは思えない。
- ・今迄，現役の役員でOB会連絡担当としてやってくれた人に集まってもらい，実態の話を聞かせてもらう会を企画する。まずは佐々木氏に前後の年代で候補を聞いてみることにした。
われわれが実態をわからずにいくら議論しても仕方ない。
(橋本氏が佐々木氏に連絡することになった)

4. その他

・建学祭激励訪問について

＊第1回役員会にて活動支援金を「現役生の意識を高めるためにも総会時に委員長に渡す」ことになり第8回総会より実施することになった。しかし、このことにより建学祭の激励訪問は以後、参加者の減少が懸念される。この点をどのように克服（解決）していくかを議論してもらいたい。

(主な意見)

- ・例えば、午前中に役員会をやり、その後部屋を開放する。というのも一つの案だが、そうすると役員会をやってホームページカミングデーに出て終わりということになるのでは。
- ・「活動支援金を渡す」というセレモニーを意識して出席した人はほとんどいないのではないか？
- ・建学祭に参加した人たちが気軽に立ち寄れる場として「会議室を借用」したわけだから、午前中に会議などをやっている则気軽に寄れなくなってしまう。
- ・「会議室」を完全に控室として開放して、役員会は11月の別の日に開催するという意見が出て、参加者一同賛同した。
- ・木村会長からのご指摘に関し、役員が現役の現在の状況を把握していないと対応策が取れない。また、60周年記念行事の実行委員会の立ち上げの問題も、現役側から全く連絡がないため動きが取れない。
- ・現役と引き続き連絡を取りながら、実行委員会の立ち上げをする方向で進めていく。

以 上

・現在の役員任期（役員共通確認事項）

2012.09.01 ～ 2016.03.31 まで です。（第6回総会確認事項）

（2012.09.01 ～ 2015.08.31 が会計年度変更のため上記となった）

＊60周年との関連もあるので、早めに次期役員を決める必要があると考えます。

提案議題 その1

① 総会時のイベントの検討

OB および現役にともに魅力あるイベント

特に OB 会会員に焦点を絞って検討願いたい。(※今回の講演は参加した OB にとっては有意義なイベントであったと思います。過去の講演もそれぞれ有意義なものであったことは皆様と同じ思いです。)

出席しない OB 諸氏は、単なる日程が合わなかったのか、経済的理由か、健康上の理由か、それとも出席するだけの魅力が総会にないのか？

等々 をぜひ論議してほしい、

我々世代および先輩 OB は、そろそろ後期高齢者になろうとしています。日程は取れても、健康と費用は、それを推しても出席したいと思わせる動機づけがなければ、なかなか腰をあげてくれないのではと思います。

次世代の OB 諸氏にも、まだ若い世代の OB 諸氏にも、日程・費用・仕事・子育て。健康など同様の理由があるものと推察されます。各世代共通の問題点をすべて解決するという訳にはいかないけれど、何を推しても出席してみたいと思ってくれるような「OB 会総会・懇親会」はできないものなのか。

私の提案するイベントとは、総会・講演会・懇親会のすべてをまとめて、出席した OB 諸氏が「楽しかったなあ、また来年も行きたいなあ」と思ってくれる「TBC-OB〇〇PARTY」の事です。

決して夢物語ではないと思います。そんな OB 会総会(総会と称するのがマズイのかもしれませんが)総会はイベント(PARTY)の中のプログラムと考えて柔軟にアイデアを膨らませてください。(会場・費用・日程・も固定しないで)

提案議題 その2

② 「創部 60 周年式典」実行委員会の立ち上げ

前回の(3月8日)に開催された「第6回合同役員会」の議事録にもあるように、6月の総会(終了)までに現役として、「準備委員会」の発足を目指すとあるので、まずはその確認と促進(可能なら進捗状況を確認するために連絡員の今役員会への出席要請)

これについては、「OB会として全面的に協力していくこととした」となっているので、意気込みとして「実行委員会」(OB サイド)としての形を整えていくべきかと思います。(※現役生にとっても責任感が生じると思います)

現役生の立場を尊重しながら、ことの流れ・イベントとしての体裁、関係機関への PR 交渉等々を指導していくことが肝要実行委員会のメンバーは、合同委員会のメンバーおよび推薦(自己推薦含む)の放送研究部員・OB 会員から選出、
(その意図)

A)現役生のモチベーションを上げる。(特に新入生を歓迎)

B)OB 会員のモチベーションを上げる。(世代ごとに推薦してもらう)

OB 会と現役生の共同イベント「創部 60 周年記念式典」 これこそ私の提案する「TBC-OB〇〇PARTY」の事です。

提案議題その1で課題にした、OB および現役にともに魅力あるイベントこそ「創部 60 周年記念式典」だと思えます。

これを機に、「TBC-OB 会」(「TBC-OB〇〇PARTY」) ※総会はプログラムの 1 呼称と考えます
す の新しい形を考えてみませんか。 以上議題として申請します。

2014. 7. 1

東海大学放送研究部 OB 会
会長 木村正義